

# 龍 竜谷通信



令和6年11月  
第7号

げんきな子  
がんばる子  
すなおな子  
くふうする子



1年生から6年生まで、それぞれのよさが輝く舞台

## 可能性を広げる

校長 手島 露子

子供の頃から、そして教師になってからも、私がとても楽しみにしている学校行事の一つに「学芸会」があります。本校では運動会を「竜谷ポーツフェスタ」、学芸会を「竜谷っ子カルチャーフェスタ」と称していますが、ねらいとするところは同じです。

私自身の小学生時代に思いを馳せます。一年生では学年合奏。先生から胸元に緑色のスカーフを巻いていただき、大きなマリンバを演奏したことが、ステージライトの熱さとともに思い出されます。五年生の劇では、各国からの使者の登場に合わせ、それぞれの雰囲気合うBGMを選定し、ピアノで生演奏するという、今になって考えると、かなり無茶な依頼を頂きました。家にあった様々な楽譜を頼りに、自分なりに工夫し、演奏したところ、担任の先生はもとより、他の学級の先生までもほめてくださり、よい経験、よい思い出となりました。

「竜谷っ子カルチャーフェスタ」本番の舞台袖。衣装をまとい、小道具を携えた子供たちが控えている様子は、教室とは別世界でした。この日を迎えるまでに、誰が何の役を演じるか、何の楽器を演奏するか、学級ごとに念入りに検討し、丹念に練習を重ねてきました。そのかけがえない時間や経験が、子供たちの自信あふれる姿につながっていました。「さあ、いよいよだよ」。担任が声をかけると、最後の魔法がかかります。普段とは全く異なる自分への変容。まさに限界突破です。その後の舞台上での全力の姿は、多くの保護者の皆様、地域の皆様にご観覧いただいたとおりです。惜しみない大きな拍手、我が子の姿のみならず、全ての竜谷っ子を見つめてくださった温かなまなざし、そして流してくださった熱い涙。その全てが、子供たちを包んでいました。また一つ、竜谷の子供たちが、自分自身の可能性を広げ、成長する大切な機会となりました。心より感謝いたします。

## ふれあうことの温かさかな・・・



11月は「ふれあい」と名のつく行事が2つもありました。「ふれあい交流会（2年生）」や「親子ふれあいドッジボール大会（PTA）」です。「ふれあい」という言葉は、「ふれる（触れる）」と「あい（合い）」の二つの単語の合成語であるといわれます。

「ふれあい交流会」では、学区のお年寄りの方々とボッチャを行ったり、名曲 美空ひばりの「川の流れるように」を一緒に熱唱したりしたあと、肩をもませていただきました。「ボッチャが上手でびっくりしたよ」「肩もみ、気持ちがいいですよ」と言っていたとき、2年生はどの子もにこにこでした。

「ふれあいドッジボール大会」は、PTA 保体部の方の企画により、多くのお父さん、お母さん方が、コートで2時間も一緒に汗を流してくださいました。どのゲームも大変盛り上がりました。身も心もぽっかぽか。まさに「ふれあい」の効果です。

## — 第2回学校関係者評価委員会 —

学校関係者評価委員会とは、学校が行う様々な自己評価の客観性や透明性を高めるとともに、学校・家庭・地域が学校の現状と課題について共通理解を深め、互いに連携することを目的としています。本校では、

- |                  |         |
|------------------|---------|
| ・学区総代会長          | 山本 英昭 様 |
| ・社会教育委員会委員長      | 山本 実鶴 様 |
| ・竜谷・藤川学区民生委員会副会長 | 附柴 巳俊 様 |
| ・PTA会長           | 青山 恵佑 様 |
| ・主任児童委員          | 山本 貴江 様 |

の5名の方々に、学校評議員として学校視察をしていただいたり、ご意見等を伺ったりしています。第2回の評価委員会では、学校代表児童より、あいさつ、友達関係、授業の様子などの現状報告や、今後がんばっていきたいことの発表がありました。また、評議員さんからは、特に「大切な命を守るための安全な登下校の仕方」についてご助言がありました。

皆さんの登下校は、いつも多くの学区の皆様に見守っていただいています。感謝の気持ちを大切に、何より自分自身で、安全な登下校について、真剣に考え、取り組んでほしいです。



評議員さんに現状報告をする代表児童

## まなびの窓



3. 4年生 バケツ稲のもみすり体験



5年生 防災倉庫にある簡易トイレ体験



5年生 震災の実際と避難所生活についての講話



6年生 高齢者疑似体験

各学年の総合学習では、外部講師の方と触れ合う機会が大変多くありました。どの講師の方も、「竜谷っ子の学びの機会になれば」と、心よく依頼をお引き受けいただき、熱心に教えてくださいました。ここで学んだことから、自分の考えを見つめ直したり、新しい発見をしたりすることにつながってほしいと願っています。